

公開講演会



講演 「読字障害（発達性ディスレクシア）の早期発見とその支援」

～注意欠如多動症や自閉症スペクトラム障害に高い頻度で併存～

日時：令和2年3月14日(土) 14:00～16:30 (受付13:30～)

講師：平谷こども発達クリニック 院長 平谷 美智夫 先生

講演内容

ディスレクシア (Dyslexia) は最も頻度の高い学習障害です。知的能力や一般的な理解力等に特に異常はないのにも関わらず、文字の読み書きに著しい困難を抱える障害です。難読症、識字障害、(特異的) 読字障害、読み書き障害とも訳されます。日本では従来その頻度は少ないと思われていましたが、必ずしも稀な疾患ではないことが分かってきました。注意欠如多動症や自閉症スペクトラム障害に高い頻度で合併します。学校は基本的に勉強するところです。本来、勉強は新しい知識を得たり物事の理屈等を考えることですが、日本では勉強＝字を読んで書くことが中心になってしまっていますので、ディスレクシアの子どもにとって勉強＝学校は辛いところです。勉強(読み・書き)が嫌い⇒学校嫌い(不登校)になっているディスレクシアの子どもは少なくありません。ディスレクシアの児童には、読み書きの負担をできるだけ軽減した上で、学習成果(字を書くことではありません)を上げるためにさまざまな配慮(合理的配慮)が必要です。合理的配慮の中で、最も有効な手段がICT(情報通信技術 Informational and Communication Technology)の活用です。今回の講義では、平谷クリニックで診断した500例近いディスレクシアの児童を紹介し、その診断、特に早期発見と支援についてお話しいたします。

講師紹介

平谷 美智夫 (ひらたに みちお)先生

金沢大学医学部小児科学教室で17年間小児科学一般とアレルギーを学ばれ、1988年に福井県小児療育センターへ赴任されました。学習障害(LD)・ADHD・自閉症スペクトラム等の発達障害の研究と療育に力を注がれ、2001年に平谷こども発達クリニックを開設。クリニック開設後は読字障害(ディスレクシア＝文字を読むことが苦手な子ども達)の診療に力を注がれています。「医療・教育・福祉の連携」をキーワードに、教育場面での合理的配慮の普及にご尽力されており、現在もご活躍中です。

[学会その他の役職] 金沢大学・福井大学子どものこころ診療部特任教授。日本小児精神神経学会・日本LD学会・日本自閉症スペクトラム学会・日本ADHD学会役員など。

会場：石川県地場産業振興センター本館 2階 第1研修室

対象：教育関係職員、医療機関職員、保育関係職員、児童福祉施設職員、障害児(者)支援事業所職員、就労支援機関職員、
 区市町職員、保護者、一般

定員：180名

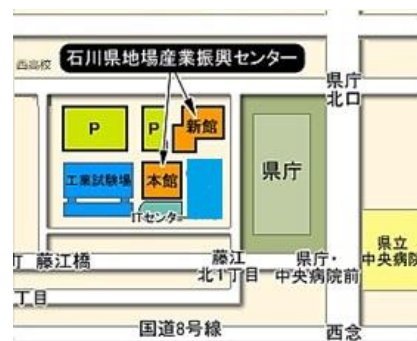
申込先：石川県発達障害支援センター

申込方法：別紙参加申込書に必要事項を記入の上、
 2月14日(金)までに、FAXまたはメールにて
 お申し込みください。

FAX:076-254-5533

メールアドレス:hattatsu@pref.ishikawa.lg.jp

—会場案内—



注)参加決定通知は行いません。定員に達した場合は、それ以降の申込者には連絡いたしますのでご了承ください。

主催：石川県発達障害支援センター

TEL:076-238-5557 FAX:076-254-5533

ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukusi/kokoro-home/hattatu/top.html>

